

2024年度「研究開発人材育成プログラム(5日間コース)」第2回 追加募集のご案内

建築研究開発コンソーシアムでは2013年度より、研究開発に従事し、担当者レベルからマネージャーに進む段階の方の人材育成を目的とした「研究開発人材育成プログラム」を実施しており、2023年度までに計297名の方にご参加頂き、毎回大変高い評価を頂いております。

この度、2024年度の当プログラム第2回(9/6 開始)において、5名の追加募集を行いますので下記の通りご案内いたします。

記

■日程・会場

9/6、9/20、10/4、10/18、11/1 の計5日間 ※全て金曜日 13:00~17:30 ※初日と最終日は懇親会を予定
会場：東京都中央区晴海1-8-12 晴海トリトンスクエア Z棟 4階 日本建築住宅センター講演室

■目的

1. 研究開発チームマネージャーへのステップアップとして、次のことを学ぶ
 - ・市場の把握、研究課題の創出、技術開発ロードマップ、社内外ネットワーク、組織運営と人材育成
2. 様々な業種の研修参加者との交流と人脈形成の実践・実現
 - ・参加者を5人程度のチームに分け、毎回グループワークを実施する

■募集対象・人数

1. 研究開発に従事する社員または技術関連業務に携わる社員で、マネージャー又は、マネージャークラスへのステップアップを目指されている方
2. 実施期間中を通して全てのプログラムに参加可能な方
3. 追加募集人数:5名
 - ※すでに2024年度の第1回に参加、または第2回参加予定の会員様につきましても申込可能とします。
 - ただし、申込者数によっては調整をさせていただく場合があります。

■参加費 無料

■募集期間

- ・2024年6月14日(金)~2024年8月23日(金) ※定員になり次第、締め切らせていただきます

■申込先

- ・お問合せ・お申込み先：建築研究開発コンソーシアム事務局 担当 恩田 宛
メール human@conso.jp / TEL 03-6219-7127
※お申し込みは別紙「参加申請書」により、ご本人、または連絡担当者の方からメールにて送付願います。

研修プログラム

- ・ 研修は、講義とグループワーク、研修レポートで構成されます。
- ・ 講義は、企業の研究開発に携わってきたベテラン研究者・技術者による「私の研究開発履歴書」と、特別講義として、政策動向・MOT・マーケティング関連の各講義と、村上特別顧問による講演を予定しています。
- ・ 各講義の内容・担当講師、グループワークおよび研修レポートの内容は以下の通りです。

2024年度「研究開発人材育成プログラム(5日間コース)」第2回 研修スケジュール

*プログラムは、諸事情により変更になる場合がございます。

9月6日 (金)	13:00-14:10	14:20-15:20	15:25-16:40	16:40-17:30
	■開会挨拶 インキュベーション委員長 (プログラム説明) ■受講者自己紹介	■私の研究開発履歴書 藤井 俊二氏 [Built Environment Research・大成建設 OB]	■グループワーク ・講師課題説明 (同 左) ・進め方説明 ・課題討議・意見等 取りまとめ	■各グループ発表 (含:受講者相互 質疑応答) ■講師講評(同 左) 17:40-18:40 ■懇親会 (情報交換)
9月20日 (金)	13:00-15:00	15:05-16:05	16:05-17:10	17:10-17:30
	■特別講義 「環境と建築」 村上 周三氏 [東京大学名誉教授・CBRD 特別顧問]	■私の研究開発履歴書 栗原 潤一氏 [ミサワホーム]	■グループワーク ・講師課題説明 (同 左) ・課題討議・意見等 取りまとめ	■各グループ発表 (含:受講者相互 質疑応答) ■講師講評(同 左)
10月4日 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-16:50	16:50-17:30
	■特別講義 「技術マネージメント MOTの紹介」 出川 通氏 [テクノ・インテグレーション]	■私の研究開発履歴書 飯田 毅氏 [飯田技術士事務所・住友金属工業 OB・元大阪産業大学教授]	■グループワーク ・講師課題説明 (同 左) ・課題討議・意見等 取りまとめ	■各グループ発表 (含:受講者相互 質疑応答) ■講師講評 (同 左)
10月18日 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-16:50	16:50-17:30
	■特別講義 「観察から洞察へ ～イノベーションを 創出するために」 富田 晃夫氏 [㈱ミサワホーム 総合研究所]	■私の研究開発履歴書 安藤 達夫氏 [安藤 F&M 代表・三菱ケミカル OB]	■グループワーク ・講師課題説明 (同 左) ・課題討議・意見等 取りまとめ	■各グループ発表 (含:受講者相互 質疑応答) ■講師講評 (同 左)
11月1日 (金)	13:00-14:30	14:40-16:50		17:00-18:00
	■特別講義 「住宅分野の政策課題 と対応の方向性」 東野 文人氏 [国土交通省]	■受講者研修レポート発表 ■プログラム成果講評 インキュベーション委員会 人材育成プログラム小委員会主査	■懇親会 (相互理解 /情報交換)	

私の研究開発履歴書 * 講義内容は変更となる場合がございます。

○「研究開発～部分から全体へ～」 藤井 俊二 氏 (Built Environment Research・代表、大成建設(株)OB)

1974年に東京大学工学系大学院修了、大成建設(株)入社。1982～84年にカリフォルニア大学バークレー校留学。2000年大成建設(株)技術研究所 建築研究部長、2004年に同社技術センター 副技術センター長、2012～14年技術センター 技師長。同社退社後、2015年に Built Environment Research 社を設立。

工学博士、1級建築士、技術士(応用理学部門)、コンクリート主任技師、CBRD 学会会員。建築研究コンソーシアムのアイデアコンペで、第4回最優秀賞・第8回審査員特別賞・第10回10周年記念賞受賞・第15回優秀賞を受賞。平成29年度建築研究開発コンソーシアム功労賞受賞。

Part1 どんな研究開発をやってきたか

1. 研究開発
2. 研究開発マネジメント
3. 社会の課題への取り組み

Part2 マネージャーになったとき知っておきたいこと

1. 研究課題の創出
2. 人材マネジメント
3. 人脈形成
4. ビジョンの構築

○「住宅における省エネ開発を通して」 栗原 潤一 氏 [ミサワホーム(株)]

1977年東海大学大学院工学研究科(建築学専攻)修了、1978年ミサワホーム(株)入社。同年(株)ミサワホーム総合研究所出向。主に、住宅の省エネルギー性、自然エネルギー利用の研究に従事。1993年環境エネルギー研究室室長、1996年「屋根一体型太陽光発電システム」、1998年「ゼロ・エネルギー住宅」開発。2004年博士号取得。2006年(株)ミサワホーム総合研究所取締役、2013年同取締役副所長、現在ミサワホーム(株)技術担当顧問。環境共生住宅推進協議会運営委員長。一級建築士。(公)空気調和・衛生工学会 SHASE 技術フェロー。

1. 研究開発経緯

- (1) 省エネルギー・太陽エネルギー利用
- (2) 自然エネルギー利用
- (3) 太陽光発電利用の開発

2. 開発から商品化

- (1) ゼロエネルギー住宅(ZEH)
- (2) 微気候デザイン
- (3) 商品化

3. 外部団体への参画

○「耐震・制振に関わるプチ開発例」 飯田 毅 氏 [飯田技術士事務所、住友金属工業(株)OB、元大阪産業大学教授]

1972年に京都大学大学院修了、住友金属工業株式会社入社。1996年に同社建設技術部長。2000年に同社取締役。2002年大阪産業大学工学部教授。2014年から NPO 関西インフラ維持管理・大学コンソーシアム副理事長、飯田技術士事務所所長。工学博士、技術士(建設部門)

1. 研究・開発環境

2. 開発例等の小話

3. 研究開発を進める上で得た教訓: 教訓1～7

4. 技術開発面で得た小事

5. 管理職として知っておきたい話

6. 研究開発チームマネージャーとしての10か条

○「建材開発・市場開発・基準開発」 安藤 達夫 氏 [安藤 F&M 代表、三菱ケミカル(株)OB]

1973年早稲田大学理工学部建築学科卒、1976年東京大学大学院工学研究科修士課程修了。1976年三菱化成工業(株)入社(商品研究所)。1990年米国三菱化学ヴァージニア事務所、1996年三菱化学(株)複合材事業部技術グループ部長。2001年三菱化学産資(株)商品研究所長、2004年海外貿易グループ GM、2007年同社事業企画部部長。2008年三菱樹脂(株)理事、参与。2012年高機能成形材・部品関連分野事業企画部。2015年同社定年退職、東京大学学術支援職員/客員研究員。2021年 AF&M(安藤 F&M)設立。

1級建築士、危険物取扱者、第一種衛生管理者、通訳案内業(英語)、総合旅行業務取扱管理者他。2016年建築研究開発コンソーシアム功労賞受賞。

1. 自己紹介(研究開発履歴)

2. 製造業での研究開発

3. 私の建築材料研究開発履歴

- (1)金属/樹脂積層複材料(略称:ACM) (2)アルミナ繊維(AF)
(3)建築分野向け炭素繊維(CF) (4)基準開発と成果発信

4. 研究開発経験からの教訓

■特別講義 *講義内容は変更となる場合がございます。

○「技術マネジメントMOTの紹介～新規事業を成功させる日本的・実践的基礎と事例紹介～」

出川 通 氏〔㈱テクノ・インテグレーション〕

1974年東北大学大学院修士課程修了(材料加工学専攻)。三井造船㈱入社。

1989-91年ブリテッシュコロンビア大学(カナダ)客員研究員。2004年に㈱テクノ・インテグレーション設立、代表取締役就任。早稲田大学客員教授併任。2005年東北大学客員教授併任。その後島根大学、大分大学、香川大学客員教授他を併任。2007年以降、経産省、文科省、農水省各種委員およびJST、NEDO、産総研などの事業性評価委員を歴任。

工学博士。主な出版物に、「図解 実践MOT入門」「ロードマップの誤解をとく本」「図解 研究開発テーマの価値評価」「図解 開発・事業化プロジェクト・マネジメント入門」「図解 実践オープン・イノベーション入門」「図解 実践 MOT マーケティング入門」「図解 実践ロードマップ入門」「理系人生 自己実現ロードマップ読本」「75歳まで働き愉しむ方法」ほか多数。

はじめに:自己紹介と企業における環境変化

1. イノベーション実現の日本の実践 MOTとは
2. 自分たちの技術をどのように生かして守るか
3. 見えない市場(顧客価値)をどうつかむか
4. ロードマップとその活用を考える
5. オープン・イノベーション時代の発想・意識の転換
6. まとめ:今後の MOT の活用と展望

○「住宅分野の政策課題と対応の方向性」東野 文人 氏〔国土交通省 住宅局住宅企画官付 住宅活用調整官〕

1999年 京都大学工学部建築学科卒、2001年京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了。2001年 国土交通省入省、2007年 国土計画局総合計画課課長補佐、2010年 都市局市街地整備課課長補佐、2013年 総合政策局安心生活政策課課長補佐、2016年 都市局都市計画課企画専門官、2018年 内閣官房国土強靱化推進室参事官補佐、2021年 関東地方整備局建政部住宅調整官、2023年から現職。

1. 人口・世帯の変化
2. 住まいの選択～総論～
3. 住まいの選択～ファミリー編～
4. 住まいの選択～高齢者編～
5. 住まいの選択～新型コロナウイルス感染症の影響～
6. 住宅ストックの現状
7. 住宅政策の変遷と新しい住生活基本計画

○「観察から洞察へ～イノベーションを創出するために」富田 晃夫 氏〔㈱ミサワホーム総合研究所〕

1990年 東洋大学卒 同年ミサワホーム㈱入社、2015年 ㈱ミサワホーム総合研究所 フューチャーデザインセンター 市場企画室 室長、2020年プライムライフテクノロジーズ㈱技術企画推進部 商品企画課 課長 都立大学及び立命館大学 客員研究員 東京都立大学システムデザイン研究科 博士後期課程在籍中

■委員及びアドバイザー(国事業プロジェクト等):石川県 SH、PV 研究会委員、北海道長沼町まちづくりアドバイザー、住教育推進機構運営委員、国交省まちづくりプロデューサー 等

■受賞・著書:「ホーム commons 設計」開発・キッズデザイン賞受賞、「minilabo」コンセプト策定、商品化(ハイブリッド Edu)・テレワーク推進賞受賞。書籍「未来の選び方 Heart and Earth」監修、発刊

1. 共感・洞察の育成…生活者の観察と共感

- ・デザイン思考の共感フェーズの紹介
- ・観察技術を用いた生活者のニーズと挑戦の理解(事例)
- ・洞察からの学び
- ・観察データの分析と洞察の抽出方法

2. アイデア創出と評価…アイデアの発散と収束

- ・発散会議と収束会議
- ・ブレインストーミングとアイデアの視覚化
- ・アイデアの絞り込み(KJ、フレーム)
- ・エクスペリエンスデザイン(体験価値)
- ・プロトタイプングとフィードバック

3. 伝達・実装の技術…伝える技術の基礎

- ・研究職、技術職にありがちな専門バカにならない ・レイヤーに合わせた伝達方法(3つのパラグラフ、ゴールデンサークル)
- ・ストーリーテリングを用いたアイデアの魅力的な伝達
- ・ステークホルダーの巻き込み ・ステークホルダーを理解し、巻き込むための戦略

○【特別顧問講義】「建築と環境」村上 周三 氏（東京大学名誉教授CBRD 特別顧問）

1967年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 修士課程修了。1985年東京大学生産研究所教授。

1999年デンマーク工科大学(DTU)客員教授。2001年慶応義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授、2008年独立行政法人 建築研究所(旧建設省建築研究所)理事長、2003年から一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構(IBE)理事長。

工学博士(東京大学)。日本建築学会会長、国土交通省中央建築士審査会会長、国土交通省社会資本整備審議会環境部会会長、建築・住宅国際機構会長、生産技術研究所顧問研究員、慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別研究教授を歴任。2014年日本建築学会賞大賞受賞。研究分野は、計算流体力学、人体周辺環境、建築・都市環境工学、地球環境工学、サステナブル建築。2023年春の叙勲にて瑞宝重光章受章。

2008年6月～2019年まで、CBRD 会長。2019年6月から CBRD 特別顧問。

1. 環境と文明

- ①世界の主要文明 ②環境と人口 ③環境と農業 ④環境と文化 ⑤環境と思想、宗教 ⑥環境問題と文明のパラダイムシフト

2. バナキュラー建築

- ① 寒冷地の住居「イグルー」② 高温多湿気候地域の住居「高床式住居」
- ③ 高温乾燥気候地域の住居「採風塔を持つ住居」④ 乾燥地域の住居「洞窟型住居」
- ⑤ 高温多湿気候地域の住居「水上住居」

3 住宅と健康

- ① 地域、季節と冬季の死亡率 ② 健康住宅に関する世界/日本の動向 ③室温と健康 ④住宅断熱の投資回収年数

グループワーク

- ・ グループワークの目的は、アイデア創出の方法とグループワークの進め方の習得です。
- ・ 各回の「私の研究開発履歴書」講義の後、講師が講義内容に関連したテーマを提示、そのテーマについて、グループで議論します。
- ・ 「私の研究開発履歴書」講義の後、グループワークの進め方を説明します。
- ・ グループワーク時間の最後に、毎回グループ毎に議論の内容を発表し、他のグループとの質疑応答および、講師やインキュベーション委員会委員からの助言・コメント、意見交換を行ないます。

研修レポート

- ・ 最終日に受講者全員の受講者研修レポート発表会を行ないます。
- ・ 5日間の研修受講による、研究開発マネジメントの気づき、そしてチームマネージャーとしてやるべきことや意気込みについて発表します。
- ・ 毎回の講義・グループワークでの気づきをもとに、市場の把握、研究課題の創出、技術開発ロードマップ、社内外ネットワーク、組織運営と人材育成を中心として、チームマネージャーとしてやるべきことや意気込みを各自レポートに纏め、発表会で発表して頂きます。
- ・ 最終レポートとは別に、各日のカリキュラム終了後、個別カリキュラムに関するアンケートを実施します。

(参考)2023年度の実績

受講者数・構成

業種区分	第1回	第2回
総合建設業	6名	5名
ハウスメーカー	5名	4名
建材・設備メーカー	4名	2名
公的機関	0名	2名
合計	15名	13名

研修状況と受講者の声(アンケート結果)

◇参加者のニーズとの合致について

- ・ 受講者からのアンケート結果より、受講者から高い評価を受けています。

	あった	どちらでもない	あっていなかった	合計
第1回	13名	2名	0名	15名
第2回	12名	1名	0名	13名

*以下は2019-23年度の開催より抜粋。なお、2020-22年度は新型コロナウイルス状況により、以前と異なるオンライン・ハイブリッド形式で開催。

◇1チーム4~5名の3チーム構成での研修について

- ・ 他社や異業種(住宅やメーカー)の人と議論できる機会は減多になく、多様な意見を聞くことができ良かった。
- ・ 人数構成も良かったと思います。4~5名は全員が会話に参加できてちょうどいい。
- ・ 業種、職種が異なる方とお話できて有意義で、全員の考えを聞くことができ良かった。



◇グループワークでの活発な議論について

- ・ グループワークが参加者との交流の場となった。他社のリーダー、サブリーダークラスの方の考え方や意見を直に聞いて、非常に貴重な経験となった。
- ・ ディスカッションする時間が十分にとられており、異業種の方々と深く話のできるいい機会になりました。



◇各チームからの討議結果の発表、質疑について

- ・ 今回、司会と発表を担当しましたが、メンバーの意見を短時間に整理して、発表するという一連のプロセスを経験できたことは今後の業務に活用できると考えます。
- ・ 他社の方とのグループワークは、新たな発見や、モチベーション向上、コミュニケーション(含:議論の進め方)能力の向上に繋がると思いますので、良かったと思います。



◇オンライン・ハイブリッド形式で開催について

- ・ ハイブリッド開催で Zoom と Miro を使い、とても効果的でした。次年度以降にリアル開催になった時も活用できる方法だと感じます。

Zoom:ビデオ ミーティング システム Miro :ビジュアルコラボレーション プラットフォーム



◇講師の体験談を通じた講義「私の研究開発履歴書」について

- ・ 研究開発における部下の育成・評価、マネージャー・専門職の考え方について、実体験を踏まえた現実的な対処手段を伺うことができた。
- ・ 建前だけではなく本音でお話頂き、受講者と近い感覚でお話頂いたのが良かったです。特に、質疑の際の回答は、元上司の方との人間関係のお話もあり、講義内でお話頂いても面白い内容だと思いました。
- ・ ゼネコン、ハウスメーカー、土木系建材メーカーに続き、建築系建材メーカーの方が講師であり、バランスよく考えられたカリキュラムだったと思います。



◇建築研究開発コンソーシアム村上周三特別顧問による特別講義について

- ・ 普段、考えの及ばない哲学的な内容であり非常に新鮮で興味深い内容であった。また、難しい内容でありながら話しの流れが明確で理解し易かった。自分が如何に狭い範囲で思考しているのか気付かされた。
- ・ 今後の思考の一助としたいと思う。
- ・ 有病割合改善という考え方など、今までにない考え方を講義して頂き大変参考になりました。バナキュラー建築の事例を見せて頂き、建物のあり方を再認識できました。



◇「技術マネジメント(MOT)」に関する講義について

- ・ 技術マネジメント MOT に接したのは初めてだったが、成功例・失敗例などの経験談を交えて頂いたので身近に感じる内容であり、非常に分かり易かった。
- ・ MOT では研究→開発→事業化の展開と売上高の関係やプロダクトライフサイクルを示して頂けて参考になった。



◇「マーケティング(行動観察)」に関する講義について

- ・ 「今まで「行動観察」に接したことがありませんでしたが、「行動観察」の基礎的内容を教えて頂き、今までは違う着眼で観測する方法を会得できた点が良かったです。
- ・ 行動観察より潜在的なニーズをとらえイノベーションを考える講義は興味深いものでした



◇住宅関連政策に関する講義について

- ・ 住宅に関してのこれからの国の政策を直接伺うことができ、今後のテーマ選定に非常に役に立ちました。
- ・ 将来的に必ず必要となる情報でありながら、あまり詳しく知る機会が無かった住宅を取り巻く様々な情報・データの解説は大変勉強になりました。



◇研修レポート発表会での各人からの成果発表について

- ・ 折角の研修内容について共感し合えた事を思い出して、現状業務に生かす糧にしたいと切に願います。5日間とは言え貴重な他業種の方々と一緒に研修を共にした仲間が作成した“研修レポート発表資料”は、思い出のきっかけや参考にさせていただけると思います。
- ・ 最終日の「受講者研修レポート発表会」は自分なりの気づき、メッセージを記録に残すことが出来、必要。他の受講者のレポートも興味を持って聴き、参考になった。



◇研修全体について

- ・ 会社から一步はなれて、いろいろな人と交流できたことは非常に有意義と感じました。今後も、内容をブラッシュアップしながら継続して実施いただくと、私に続く後輩も助かると思いますので宜しくお願いいたします。ありがとうございました。
- ・ 今回の研修ではこれまでになかった異業種の方と交流ができたことで、色々な気づきを得られ、大きな収穫となりました。今後は、最終回で自分が発表したことを実践できるように努めていきたいと思っています。



◇5日間(各半日)の期間・スケジュールについて

- ・ 4人の履歴書の講師は、どの方も省けない。一日に一人がベスト。
- ・ 講義を受けて2週間、聴いた内容を実践したり出来ることが良い。そして、それが4回経験出来ることも、反復の意味から効果を発揮し易い。
- ・ 人脈形成からも5回ほど顔を合わすことは必要。5回でも全員と交流し切れなかったのが、これ以上短縮することは好ましくない。
- ・ 午後からの実施なので遠方からの移動が容易。前泊の必要がない。
- ・

建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204

東京都中央区晴海1-8-12 晴海トリトンスクエア オフィスタワー Z棟 4階

TEL 03-6219-7127

代表 E-mail conso@conso.jp

Home Page <http://www.conso.jp/>